

会 員 各 位

令和5年1月15日

一般社団法人 山形県歯科技工士会  
会 長 櫻井 利浩  
学術常務理事 尾形 清敏

山形県歯科医師会・山形県歯科技工士会  
第42回共催学術講演会のご案内（Web・対面形式）

平素は本会会務運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

山形県歯科医師会と山形県歯科技工士会では、標記共催学術講演会を歯科技工士の戸田篤先生をお招きし、下記日程で開催いたしますので、多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

記

日 時 令和5年2月26日(日) 10時～16時  
場 所 山形県歯科医師会館（ZoomによるWeb配信あり）  
講 師 戸田 篤 先生（歯科技工士）  
演 題 **デンチャーワールド**  
～患者のQOL向上を目指し、素材とテクニックを駆使した義歯～

対象者 歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士  
参加費 山形県歯科医師会・歯科技工士会・歯科衛生士会会員は無料  
未入会員4,000円（会場参加者で昼食が必要な方は別途1,000円）  
会場受付 令和5年2月26日(日)午前9時半より 山形県歯科医師会館内にて

募集締切 令和5年2月13日（月）  
申込方法 右記QRコードよりお申込みください。  
問合せ先 山形県歯科技工士会  
（メールアドレス [yamashigi@rose.ocn.ne.jp](mailto:yamashigi@rose.ocn.ne.jp)）



## 歯科技工士 戸田 篤 (とだ あつし)

### ■略歴

1977年 愛歯技工専門学校卒業

1977年 河邊歯科医院勤務 (院内技工 18年)

1995年 トダプレシヤスアート 代表 (コマーシャルラボ)

2005年～現在 デンタルデザイン デイズ 代表 (講演活動開始)

河邊臨床教室 1996～2021年 (25年 副会長)

総義歯臨床研究会「車座」2007年～

臨床補綴研究会「口福」 代表 2014年～

日本歯科技工士会会員(銀座歯科技工士会) 2006年～ (副会長 2019年～)

日本歯科技工士会認定講師 2011年～

日本歯科理工学会会員 2019～2020年

補綴物コーディネーター 2020年～

GC Seminar Instructor 2007年～

Denturochemical Technical Adviser 2021年～

TODA Denture System Instructor 2008年～

CP Denture® Instructor 1996年～

日本歯科技工学会 発表 自然観を求めた人工歯選択と人工歯配列 2005年  
作業時間を短縮する人工歯配列 2011年

日本歯科理工学会 発表 上顎総義歯の変形挙動に補綴装置が及ぼす影響  
2019年

全国歯科技工教育協議会 講師 2006年・2016年 (人工歯配列教員実習)

講演・セミナー：27都道府県～2022ベトナム 127回

経営革新：ショールームによる義歯の販売方式の確立 2010年

患者の補綴物コンサルサービスの提供 (補綴物コーディネート) 2020年

DENTURE WORLD (デンタルダイヤモンド社) 発刊 2013年4月

Complete Denture Design (医学情報社) 発刊 2018年2月

月刊 歯科技工・デンタルダイヤモンド・日本歯科評論・QDT 他 文献多数

## ～デンチャーワールド～

### ～患者の QOL 向上を目指し、素材とテクニックを駆使した義歯～

益々超高齢化が進み、デンチャーの重要性は増している半面、デンチャーに対するイメージは決して良い状況と言えるでしょうか。デンチャーに悪いイメージを抱いているのは患者さんだけではありません。日本の歯科技工士の約9割が保険の枠でデンチャーを作っており、対価や材料やテクニックを自由に選択できないまま本意なデンチャーを製作しているのが現実ではないでしょうか。近年の歯科技工はデジタル化が進み画像処理システムやコンピューター加工技術がますます進化している。デンチャーも CAD/CAM や 3D プリンターなどによりデジタル化しつつあります。ですが決してコンピューターソフトがすべて製作するわけではなく正しい知識を持った歯科技工士のコントロールによって設計され形にする。デンチャーの正しい製作法を学ばなければ患者さんを満足するデンチャーはできない。

#### 1.心でつくる臨床総義歯の神髄

2018年2月に出版した「**CompleteDentureDesign**」～心でつくる総義歯～の中から「3つの印象と3つの模型から作る総義歯」。無くなってしまった口腔内の審美と機能の回復を目指し「噛む」ことだけではない、模型の上の適合に合わせ口腔内に調和させるための知識と技術を知ること。解剖学的ランドマークを活用した模型設計の大切さや時短を考え調整量の少ない人工歯の選択や失敗の少ない人工歯配列法、発音や嚥下運動を考えた歯肉形成など、基礎的な臨床総義歯から製作法を解説したい。

#### 2.デンチャーワールド

患者が待合室で気軽に読める義歯の本「**Denture World**」～義歯で口福になるために～を2013年4月にデンタルダイヤモンド社から出版した。患者さんにダイレクトに素材とテクニックを紹介するための本です。患者さんはもちろん歯科医師、歯科技工士に向けてデンチャーの魅力を伝えるため製作した本です。保険で良い物が作れないとは言いませんが材料や時間の問題を考えると限界があります。素材もテクニックも日々進化しています。最良を考え適正な材料やテクニックを選ぶことによりもっと様々な質の向上したデンチャーを製作できるはずです。

私は歯科技工士になり故河邊清治先生の歯科医院に務めていた頃から、現在に至るまで44年、患者さんのQOL向上を目指したより良い義歯製作するために保険の枠にとらわれずに取り組んできました。

パーシャルデンチャーは審美と機能を両立するための修理加工のできるPMMAによる「**弾性レジックラスプデンチャー**」や目的に応じたレイヤーデンチャー（**積層義歯**）の中から「**CPデンチャー®**」、「**カラーレイヤーデンチャー**」、「**シリコンレイヤーデンチャー**」など。目標を明確にし、患者さんのQOL向上を目指し、素材とテクニックを駆使したデンチャーを視覚的に分かりやすいように写真からシンプルに解説したい。